



2025 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 スカイマーク株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 本橋 学
(コード番号: 9 2 0 4 東証グロース)
問合せ先 執行役員・IR室長 田上 馨
(TEL. 0 3 - 6 8 5 3 - 7 2 2 2)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2025 年 11 月 13 日の取締役会において、2025 年 5 月 15 日に公表いたしました、2026 年 3 月期（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）の業績予想について、以下のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想数値の修正について（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

	事業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	117,300	2,000	2,100	1,200	19.93
今回修正予想（B）	111,000	1,600	1,000	100	1.66
増 減 額（B－A）	△6,300	△400	△1,100	△1,100	－
増 減 率（％）	△5.4	△20.0	△52.4	△91.7	－
（参考）前期実績 （2025 年 3 月期）	108,893	1,826	760	2,146	36.14

2. 修正の理由

2025 年 3 月期中間期においては、継続的な円安や海外インフレの影響で整備費をはじめとするコストが記録的な水準で上昇いたしました。この厳しい環境に対し当社では、堅調な国内旅行の移動需要を背景に単価引き上げや機材稼働率の向上による収益の拡大に取り組み、平均単価を前年同期比で 5.7%引き上げることができましたが、競合他社の継続的なセール等の影響もあり、有償旅客数は前年同期比で 4.7%減となり、事業収益は期初想定を下回る見込みとなりました。こうした状況を受け、コスト面では管理可能費のより一層の抑制に努めましたが、事業収益の不足分を賄うには至らず、営業利益は期初想定を下回る見込みです。

経常利益につきましては、営業利益の減少に加え当社の持続的な成長のための先行投資（新機材（自社発注機材）に係る資金調達に伴う支払手数料等）が発生するため、期初想定を下回る見込みです。この新機材に係る資金調達は期初計画には含まれておりませんでした。今後も継続することが想定されるインフレや金利その他の条件を総合的に考慮し、今年度に行うことが最適であると判断したものであります。

当期純利益につきましては経常利益の下振れに伴い期初想定を下回る見込みです。

なお、配当については税引前当期純利益を計算の基準とする方針に変更はございません。税引前当期純利益

に大きな影響を及ぼす為替変動等を予測することが難しいため当中間期末における配当予想は未定のままとしておりますが、当方針に従い修正後の業績予想に基づいて算定した想定配当額は3.8円となります。

上記のような状況のもと、下半期においては予約の早期積み上げを行いつつ、需要に応じて柔軟な価格設定を行うことで旅客数の減少も回復基調にあり、細やかなレベニューマネジメント施策の効果が発現し始めております。コスト面においては、安全確保に関する投資は惜しまず、管理可能費については一層の削減を進め、お客様に継続してコストパフォーマンスの良い空の旅を提供することで企業価値を高めるよう努めてまいります。

なお、第3四半期以降の為替レート、ドバイ原油レートはそれぞれ従来想定の1米ドル＝150円、1バレル＝75米ドルとしております。

(注) 上記予想は、本資料の発表日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績及び配当は、今後の様々な要因により予想値と異なる可能性があります。

以 上